

Yomiuri Shinbun Newspaper, June 30, 2003

肉腫への関心高めよう '03/6/30

サイクリングで訴える

広大生らが「マラソン」

がんの一種で、筋肉や骨などに発症する肉腫への関心を高めようと、十か国で実施される「サイクリングマラソン」が二十九日、県内でも広島市-大野町間で行われ、広島大学の学生ら二十五人が参加した。

参加者は「Team

SARCOMA (肉腫)」と書かれたTシャツを着て、平和記念公園(広島市中区)を出発。五キロごとに空き地やコンビニなどで休憩をとりながら、宮島口フェリー乗り場(大野町)を折り返す往復約4キロを、全員が自転車で走り切った。

左太ももに肉腫を患い、闘病生活を送る米国・ニューヨーク在住のエリザベス・シュライバーさんの父・ブルースさんの友人で、元広島大教授の市川忠男さん(67)と、教え子のインド人会社員ラオ・サシパリさん(40)が参加者を募集した。七月五日にも実施する予定。問い合わせは市川さん(082・246・0887)へ。